政策評価シート【総括票】

施策の柱	５－３　都市農林業を振興する

基本方針	都市農林業の振興を図るため、農畜産物の安定供給や農業経営体の育成、農村と森林の持つ多面的機能の活用などを進めます。

担当局（区）	経済農政局

評価区分	B	政策の目的達成に向けかなり成果が現われている

【評価の理由・説明】
　千葉市産の農畜産物を買いたいと思う市民の割合は、目標値を上回っており、ひとつには地産地消の取組みなどを推進したことにより、生産者の顔が見える、安全・安心な地元の農産物への志向が高まったことによるものと考えられる。一方で、営農指導数については、平成26年2月の大雪被害により巡回指導以外の業務が増大したため、計画どおり指導することができなかったことにより、目標値を下回る結果となった。
　また、農林業に従事する担い手の高齢化によりに離農が進んでいるものの、安定した農業経営体の育成を進めるため、耕作放棄地の再生整備の取組みを実施し、結果として、営農再開面積が増加している。
　農村と森林の持つ多面的機能の活用については、市民農園の利用面積が増えている一方、農業・農村を身近に感じる割合が若干の向上にとどまったことや、里山の保全活動参加者数が目標値に達しなかったことから、市民に対するPR等が十分ではなかったと考えられる。
　全体として、施策ごとの取組みにより、効果が得られたものと、一定程度あったものが混在した結果の評価となっている。

【今後の取組みの方向性】
市内産農産物の活用を促進するため、さまざまな販売店に販路を拡大するとともに、流通等の課題を整理し飲食店での取り扱い量と・品数の増加と気軽に食べられる機会の拡充を図る。こうした取組みを通じて、顔の見える関係を醸成し、安全・安心な農畜産物の安定供給につなげていく。
　また、安定した農業経営体の育成を図るため、今後も耕作放棄地整備事業により荒廃した農地を作付可能な状態に再生する経費の一部を補助するなど、営農再開面積の拡大によって優良農地の確保と有効活用を進めていく。
　さらに、農村と森林の持つ多面的機能の活用を進めるため、市民農園・観光農園を積極的にPRするとともに、農家レストランの開設等を支援していくほか、里山の保全活動については、森林の果たす役割や保全の重要性、森林ボランティアの魅力や意義をイベントや広報活動により市民に伝えていく。
　これらの取組みを進めることにより、都市農林業の振興を図っていく。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
　A：4．5点以上、 B：3．0点以上4．5点未満、 C：1．5点以上3．0点未満、 D：0点以上1．5点未満、 E：0点未満

生活実感・行動指標

（%）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
166	千葉市産の農畜産物を買いたいと思う	67.2	69.0	72.0	75.0	75.7			◎	5
169	市内の農業・農村を身近に感じる	29.5	32.5	35.5	40.0	30.4			△	1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
167	営農指導数(件/年)	296	400	420	440	298			△	1
168	営農再開面積(ha)	3.8	5.9	8.0	10.8	6.7			◎	5
170	市民農園利用面積（市民100人あたり）(㎡)	4.10	4.50	4.70	5.00	4.93			◎	5
171	里山の保全活動参加者数(人)	111	200	400	600	150			△	1

平均点	3.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況 達成	進捗状況 未達成	主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
５－３－１	7	6	消費者の健康志向及び食品に対する安全志向の高まりにより、千葉市産の農畜産物への志向が高まった。
５－３－２	1	1	耕作放棄地の増大や農業従事者の高齢化、担い手不足など、農業を取り巻く環境は厳しい状況にある。
５－３－３	12	1	市民農園の開設に係る補助事業の実施等により、市民農園利用面積を計画的に増設することができた。また、森林ボランティア団体は高齢化が進み、活動が困難になる状況がみられる。